

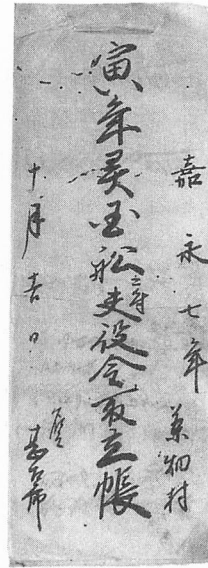
第七章

幕末維新の裾野



三八
 (八五四)
 嘉永七年一〇月吉日 茶畑村異国船来航につき夫

役金取立帳(横)



(表紙)
 嘉永七年 茶畑村
 寅年異国船ニ付夫役金取立帳
 十月吉日 名主 甚太郎

当寅年異国船

渡来ニ付夫役金割

金三拾三両三分ト

永七拾五文五厘五毛

茶畑村分

高老石ニ付
 三百式拾壹文式分五厘
 但五分ヲ懸ル

- | | |
|----------------|--------|
| 一六貫三百四拾三文 | 瀧ノ 甚兵衛 |
| 一壹貫式拾三文 | 直右衛門 |
| 一七百六拾八文 | 村田〇 |
| 一壹貫式百七拾壹文 | 傳藏 |
| 一三貫六百五拾式文 | 源治郎 |
| 一百四拾式文 | 瀧藏 |
| 一六百五拾五文 | 永助 |
| 一貳百九文 | 長左衛門後家 |
| 一四百四文 | 忠右衛門 |
| 一五百九拾式文 | 吉藏 |
| 一六百五文 | 弥助 |
| 一六百丁五拾文
(マ) | 庄三郎 |
| 十月廿九日受取 | |
| 一八百拾三文 | 太郎兵衛 |

一六拾四文	源	蔵	一三貫四百四拾壹文	善	蔵
一六五拾六文	忠	蔵	一三九拾四文	彦右衛門	
一壹貫三百五拾九文	忠	助	一六拾廿文	利兵衛	
一百廿七文	莊山坊子	幾山坊	一五拾八文	甚七	
一五百七文	勝左衛門		一三四拾三文	佐助	
一百四拾七文	助左衛門		一六拾四文	磯八	
一七六拾貳文	文蔵		一四四拾四文	治五左衛門	
一百拾六文	山ノ根		一三拾九文	忠蔵	
一壹貫五百文	吉兵衛		一壹貫五百廿一文	元右衛門	
内壹貫貳百文受取			一貳百七拾四文	甚右衛門	
一四六拾七文	清蔵		一三〇七拾貳文	市右衛門分	
一五貫三百廿四文	元右衛門		一壹貫五百六拾五文	次右衛門	
内三分受取			内壹貫四百文 受取		
一七貫四百廿六文	吉左衛門		一三貫七百五拾七文	長右衛門	
一四拾文	与右衛門分		内金壹分ト壹貫九百文 受取	百八十壹文 受取	
一八文	新助分		一拾貳文	助作	
			一百八拾九文	不動堂免	

一 五百拾七文

一 拾八文

一 百廿三文

一 百五拾四文

一 壹貫五百卅三文

十月廿九日取

一 三拾四文

一 貳百九文

一 百廿一文

一 百五拾八文

一 貳百廿貳文

一 七百三拾九文

いつきの
清左衛門

同村
源四郎

△公文名
市右衛門

△同村
利兵衛

△タキいん居
与右衛門

(△念)
久文名

△同
市左衛門

△同
弥平治

△公
茂兵衛

同
林右衛門

同
利右衛門

同
平右衛門

村
田○

高百五拾七石壹斗六升四合壹勺

五拾貳貫六百三拾貳文

中丸組

一 壹貫四百五拾六文

一 拾六文

一 拾四文

一 四百七拾八文

一 六百三拾三文

一 五百七拾九文

一 壹貫八百七拾文

一 六百貳拾五文

一 百壹文

一 壹貫九百貳拾三文

一 百拾五文

一 壹貫貳百四拾三文

一 三貫五百七拾八文

甚左衛門

喜兵衛

幸七

庄兵衛

伊右衛門

善右衛門

弥右衛門

林右衛門

安兵衛

和助

与左衛門

金重

与右衛門

内金壹分也 受取

隠居

金貳分壹朱十月廿九日

受取
夫孫右衛門

一百七文 仁右衛門
 一百拾文 直藏
 一五百拾八文 伝左衛門
 三百文受取
 又貳百〇八文取ル
 一四拾九文 友右衛門
 一五百四拾文 八左衛門
 一五百三拾四文 定吉
 一八百八拾八文 安藏
 一四百五拾壹文 文藏
 内三百八拾三文藤右衛門出
 残り六拾四文蔵出
 一壹貫四百九文 伊助
 一壹貫六百五拾六文 清蔵
 同人納
 一四百五拾文 武右衛門
 甚七
 一九拾五文 源右衛門
 たみや
 一八百四文 仁三郎
 一八百貳拾六文 由右衛門

一壹貫五拾貳文 林助
 一壹貫八百七拾五文 同隠居分人
 二〇〇
 金壹分貳朱ト四百拾九文 夫同人々
 十月廿八日
 内壹分受取
 一壹貫百八拾九文 又兵衛
 同人納
 一三拾文 平八丸分
 一百拾四文十月晦日 弥左衛門
 一五百四拾六文 文左衛門
 一壹貫七百七拾貳文 伊八
 〇
 一壹貫五百五拾三文 半平
 金壹分受取
 つり七拾壹文返ス
 夫孫右衛門
 一七百八拾九文 繁左衛門
 内五百文受取
 一貳貫四百貳拾八文 弥助
 一拾七貫九百八拾九文 伊左衛門
 此金貳両貳分貳朱ト四百五文

一百三拾七文
与祖右衛門隠居

此所百四拾九文受取
夫孫右衛門

一六八拾八文
栄藏

一七拾壹文
常右衛門大敷

十月廿九日孫右衛門方受取

一六拾三文
平松傳藏

一壹貫六百九拾五文
要塚村助

一四八拾三文
源五郎

一五八拾六文
善嶋田六

高合百六拾四石七斗七升九合四勺

錢五拾五貫百八拾壹文

市之瀬組

一壹貫四百拾五文
甚左衛門

一壹貫六百六拾七文
用助

一五百貳拾三文
平右衛門

一壹貫七拾九文
惣平

壹貫六百七拾貳文高五石分引
差引五百八拾九文之過

一六八拾八文
林右衛門分

一五拾八文
清右衛門

一八八拾八文
友右衛門

八文過ノ分

一六八拾四文
甚助

廿貳文過ノ分

一壹貫百八拾七文
忠藏

十月廿七日受取

一三貫百三拾壹文
甚平隠居

一貳貫四百六拾貳文
佐右衛門

高合三拾五石九斗八升九合五勺

錢拾貳貫五拾壹文

十月廿七日

一金式朱つり三百九十五文遣ス 彦右衛門受取

一金三朱拾四文受取 芳 藏受取

(沼津市 柏木正男氏所藏)

三六 慶応四年二月一九日 下郷組合農兵取立村々割合

帳(横)

(表紙)

慶応四辰年

下郷組合農兵取立村々割合帳

二月十九日

下郷組合

下郷組合

一 高式千八百拾壹石壹斗壹升三合

此高割

拾人五分

高百石ニ付

三分七厘三毛五弗壹五

但シ式ヲ縣ル

一 高五百五拾六石六斗九升 神山村

此割 式人七厘九毛四弗

一 同百九石七斗四升四合 岩波村

此割 四分九毛九弗

一 同百拾九石五斗七升 石脇村

此割 四分四厘六毛六弗

一 同四百六拾六石六斗三升五合 佐野村

此割 式人七分四厘三毛

一 高四百三拾八石七斗四升四合 公文名村
稻荷村

此割 式人六分三厘八毛八弗

一 同七百拾七石六斗三合 茶畑村

此割 式人六分八厘四弗

一同百七拾七石七斗式升式合 平松新田

一同式拾壹軒

岩波村

此割
六分六厘三毛八弗

此割
三分八厘三毛七弗

一同百八拾三石壹斗七升六合 麦塚村

一同三拾四軒

石脇村

此割
六分八厘四毛

此割
六分貳厘壹毛貳弗

一同四拾壹石三斗九合 二ツ屋新田

一同百拾貳軒

佐野村

此割
壹分五厘四毛三弗

此割
貳人四厘六毛

一同六拾五軒
公文名村
稲荷村

下郷組合

家数五百七拾五軒

一同百三拾八軒

茶畑村

此家数割
拾人五分

此割
貳人五分貳厘壹毛

拾軒ニ付

一同式拾壹軒

平松新田

壹分八厘貳毛六弗壹
但シ七ヲ懸ル

此割
三分八厘三毛七弗

一家数百三拾七軒 神山村

一同三拾三軒

麦塚村

此割
貳人五分三毛

此割
六分三毛

一同拾四軒

此割
貳分五厘六毛

二ツ屋新田

一四分壹厘

一貳分壹厘四毛

〆壹人

二ツ屋新田
麦塚村

〆四人五分八厘貳毛

〆七分九厘四毛

〆壹人六厘八毛

〆三人七分八厘九毛

〆貳人八分貳厘七毛

〆五人貳分貳毛

〆壹人四厘八毛

〆壹人貳分八厘七毛

〆四分壹厘

惣〆 貳拾壹人七毛

神山村

岩波村

石脇村

佐野村

公文名村

稲荷村

茶畑村

平松新田

麦塚村

二ツ屋新田

一八分貳厘七毛

一四厘八毛

一六厘八毛

一五厘七毛

〆壹人

〆壹人

一七分八厘九毛

一貳分貳毛

一壹厘六毛

〆壹人

公文名村

稲荷村

平松新田

石脇村

麦塚村

公文名村持

佐野村

茶畑村

麦塚村

歩厘組合

一三分七厘六毛

神山村
岩波村

(裾野市佐野 佐野区有文書)

三七〇 (二八六八) 慶応四年二月二八日 佐野村・二本松新田に親征

先勢二〇〇名余宿泊につき

廻状

御親征御先勢薩長御人数丸式百人余、明廿九日昼後其村
方江御出張ニ付、右御賄与して拙者共付添罷越候間、兵
糧米并味噌香之者^(物)、下宿ニ而夜具蒲団等急速用意いたし
置差支無之様可被取計候、以上

二月廿八日戌中刻

水野出羽守内

白井梅藏

芹沢富太郎

佐野村

二本松新田

役人中

追而膳腕汁之実等成丈ヶ用意可有之候、以上

大急廻状を以申達候、然者

長州様御人数六拾人様程

佐土原様御人数四五拾人様程

右者御親征 御先勢為二本松迄御越、同村御泊リニ相成

候間、御通行者聊御不都合無之様小前一同不洩様御申触

可被成候、此廻状承知之旨村名下江被成印形早々順達留

々返却可被成候、以上

右者其御筋方只今御達御座候ニ付 水野出羽守様御出

役渡辺音藏様・原川恵七郎様方被申聞候間、左様御承知

可被成候、以上

二月廿八日

子上刻

年寄

幸原村・徳倉・伊豆佐野・平松・二本松

右村々

御名主中

三島宿

問屋

相模街道

御殿場・竹之下・矢倉沢之内ニ而

谷山藤之丞殿

從三嶋駅

三浦十郎殿

森権兵衛

急用也

三月二日巳之中刻出ス

御殿場出張

三島駅出張

水野出羽守家来

同家内

芹沢富太郎殿

原川恵七郎

御親征御用三月二日差出し

(慶応四年正月『御用書御配府留』より抄録)

(裾野市佐野 古谷善和氏所蔵)

三七二 (一八六八) 慶応四年二月 農兵取立につき一札

農兵取立之事

一 此度私義及落札ニ候処、三ヶ年之内杉名沢村江買揚人

頼ミ入候得共、若其者不埒之節者無滞私罷出無相違急

度相勤可申候、年々之義者組合作法通り相勤可申候、

為後日之一札依如件

慶応四辰年

二月

当人

村役人

(裾野市下和田 杉本清住氏所蔵)

三七三 (一八六八) 慶応四年二月 富沢村非常取極規定書(竪)

(表紙)

慶応四辰年二月
非常取極規定書
富沢村

規定書之事

一 近来不容易御時世ニ相成、殊ニ時今上方筋大事件ニ付
至前浮浪博徒之類発起、夫々ニおゐて狼籍乱妨致村々

一同難渋之余り、此度最寄村々組合取締規定左之通

図ニ及不申欠付可申事

一 非常組与唱壯年之者相撰高百石ニ付式人ツ、極置可申、尤小前ニ而者小頭老人、大村ニ而者兩三人ツ、人数之多少ニ寄相定置可申事

一 得物之儀者鉄炮其外何品ニ而も勝手次第取持可致事
一 合図有之候節遅参・不参有之候ハ、遠近之差別ニ寄過料又ハ時宜ニ寄過怠役為相勤可申事

附、場所ニおゐて小頭之指揮ニ随ひ可申事

一 万一非常之節怪我遇等有之候ハ、相当之手当可致事

一 給料之儀者老ヶケ年老人ニ付米式斗ツ、非常出張之節者別段手当可相渡事

一 組合村々之内何れ之村方ニ事變有之諸人用何程相掛り候共、組合村々高割ヲ以無相違出金可仕事

一出火之節ハ手当無之事

一 格月勢揃致組合村々為取締廻村可致事

附、右給料之儀者老ヶケ村限差出可申事

附、右勢揃之節兵糧之儀者一ヶ村限り名主方ニ而焚出持参可致事

一 浮浪・夜盜・博徒之類立入候節ハ居村者勿論立入候村方ニ而相図次第早速場所江欠付可申、且非常取締人并

一村役人ハ勿論非常組之者、得物ハ勿論一刀ヲ帶シ可申事、

村役人より差図有之候ハ、下知ニ随ひ可申、時宜ニ寄切殺打殺候旨も相防可申事

一 合図之儀者村々最寄宜鋪場所江半鐘ヲ鈞置、事變之節

右之通組合一同評議取究候上者聊無相違急度相守可申、依之一同連印規定致置候処如件

打喝シ可申、立入候村方ニ而合図有之候ハ、聞附次第

慶応四戊辰年

村々ニ而も半鐘相唱シ、不移時刻欠付可申事

二月

附り、出火之節ハ其村限半鐘打唱シ、外村ニ而者合

伊豆嶋田

名主	傳兵衛	組頭	善六	同	藤吉	百姓代	次郎八	下土狩村	名主	平左衛門	同	礼助	組頭	伴右衛門	同	弥七	同	丈藏	百姓代	定七	納米里村	名主	嘉六郎	組頭	弥平治	同	仙左衛門	百姓代	吉右衛門	竹原村
----	-----	----	----	---	----	-----	-----	------	----	------	---	----	----	------	---	----	---	----	-----	----	------	----	-----	----	-----	---	------	-----	------	-----

名主	要右衛門	同	仲藏	同	与助	百姓代	源左衛門	中土狩村	名主	善左衛門	同	儀左衛門	組頭	儀兵衛	同	民藏	同	平右衛門	上土狩村	名主	友八	同	作藏	組頭	政藏	百姓代	平藏	水久保村	帳頭	栄助
----	------	---	----	---	----	-----	------	------	----	------	---	------	----	-----	---	----	---	------	------	----	----	---	----	----	----	-----	----	------	----	----

同 与右衛門

百姓代 仁三郎

富沢村

名主 嘉兵衛

組頭 源藏

同 清次郎

百姓代 正五郎

一色村

名主 半右衛門

与頭 五右衛門

同 勘藏

百姓代 伊三郎

下長窪村

名主 吟平

組頭 繁藏

同 善兵衛

百姓代 甚藏

(後略)

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

三三 年未詳 旗本稲葉氏より異国船取計方につき書状

以 手紙致啓上候、春寒之節御座候得共、各方弥無御障

珍重之事存候、然者此程異国船渡来之様子ニ付兼而被

仰付置候通、四ヶ村方人数操合方之儀ニ付勝又弥右衛門

致出府委細申聞 殿様ニ茂御安心ニ被 思召候、未

タ江戸表ニ而者風聞而已ニ而騒立候儀者無之候間御安心

可被成候、内海江乗込候次第ニ寄早々仕立飛脚を以申進

候間、其節ハ即四ヶ村共御繰合可被成候、先者心配之趣

ニ付不取敢此段得御意度早々如斯御座候、以上

正月十四日

桑原岩太郎

松井庄左衛門殿

大庭仲藏殿

猶以勝又弥右衛門義 御用向之儀も有之候間、両三日
留置申候間、左様御承知久根村名主弥兵衛方江御通達可
被成候、殊之外異国船渡来之趣ニ付未タ御武器類も不揃
心配仕候、御遠察可被下候、何茂本文為ニ得御意如是御
座候、以上

(裾野市深良 松井保博氏所蔵)